



みどりの子

6月号

24. 6. 1

学校教育目標

ふるさとを愛し、進んで学ぶ子
かしこく なかよく たくましく

所沢市立荒幡小学校

協育の創出②

～家庭と『教育の場』～

校長 橋本徳邦

「協育」とは、家庭、地域、学校がそれぞれの役割を果たしつつ、協働（＝協力して子どもたちに働きかけること）して、荒幡小の子どもたちのよりよい成長を図っていく営みです。

さて、今回、保護者の皆様にお知らせしたいのはご家庭での取組の例です。それは、「早寝・早起き・朝ごはん」と「ノーメディア・チャレンジ」です。

「早寝・早起き・朝ごはん」の効用については保護者の皆様もよくご存知のことと思います。

もう一つの「ノーメディア・チャレンジ」とは、要するに、テレビやDVDを見たり、ゲーム機やパソコンを操作する時間を減らして家族が集い、ゆったりと話をする時間を増やす取組です。

一番の理想を書きます。

(毎週〇曜日、働いている大人も子どもの夕食時刻にあわせて帰ってきます。)

- 最小限のTVニュース等を見ながら、夕食を食べて、お子さんの話を聞きます。話題はお子さんが学校で経験したできごとなどです。(楽しかったこと、悲しかったこと、先生にほめられたこと・・・など)
- 夕食の片づけが終わったら、夕食を食べたテーブルでお子さんが宿題をします。宿題をしている様子を見ながら、学習のことも話題にしていだければと思います。

大人にとって、「家庭」の位置づけは「教育の場」としてだけあるわけではありません。「休養の場」でもあり「癒しの場」でもあると思います。「ゆっくりTVを見ていたいなあ。」という気持ちも当然だと思います。いわゆる「教育の論理」だけでご家庭の生活を組み立てるとするのは難しいと思いますが、できる範囲からご協力をいただければ幸いです。